（別紙4-1）　　NPO法人　福祉サービス評価機構Kネット

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0170503528		
法人名	合資会社　オープンハート		
事業所名	グループホーム　美優平岸		
所在地	〒062－0932 札幌市豊平区平岸2条5丁目1－11　第2柳田ビル1F		
自己評価作成日	平成27年10月15日	評価結果市町村受理日	平成27年12月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=0170503528-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4　高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成27年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

運営理念である『日々の暮らしの中でその人らしくいつまでも尊厳のある心豊かで安らかな生活が送れるよう目指します』をモットーにし利用者様一人ひとりの個性を大切にした暮らしを行っています。率先し食事の準備をしたり、楽しく会話をしながら食卓を囲まれております。また、地域（町内会）の方々との交流も積極的に行い行事（イベント）参加や外出等にも力を入れております。季節行事にちなんだ食材を使い利用者様と料理をしたり、季節にあった装飾を作ったりホーム内でも季節感が味わえるように工夫をしております。職員は毎月研修会を行いスキルアップに繋げております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は地下鉄駅から徒歩圏内にある1ユニットのグループホームで、近くに公園や病院、商店街、マンション、大規模な住宅団地があり、利便性や居住環境に恵まれている。 利用者は、天気の良い日には向かいの公園まで毎日のように散歩に出かけ、また、花見や紅葉狩り、イモ掘り、トウキビ採りなど多彩な季節の外出行事を楽しんでいる。 散歩で地域の人々と気軽に言葉を交わし、利用者の参加する地域交流サロンからは、サロンのメンバーがホームに踊りや演奏に来てくれるなど地域との交流を深めている。 食事では、調理、配下膳、後片付けなど個々の出来る力を発揮しており、職員とともに語らいながら楽しく食べている。 日帰り温泉旅行、誕生会、クリスマス会などのホームの行事には家族も参加しており、ホームの訪問の折には居室で食事を一緒に摂るなど利用者との絆を深めている。 医療面でも、熱心な在宅診療医、看護師との24時間連携体制が取られ安心に繋がっている。 職員は、毎月の研修により技術の習得とスキルアップに努め、話し方・言葉遣い、態度などについて気を配り、より良いサービスの提供に努めている。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日ごろから地域とのつながりを密にする為地域の方々とのコミュニケーションを取るよう心がけている。理念や組織においては入職時新人研修を行い業務を行う際実践できるようにしている。	理念を踏まえた行動指針を職員全員で作成し、研修、ミーティングなどで確認するとともに共用空間に掲示し、日々のケアが理念に沿ったものとなるよう努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内会行事に参加し顔見知りの関係を築き交流を図っている。運営推進会議に参加頂きグループホームへの協力や理解が得られるよう努めている。	町内会の清掃活動、日帰り温泉旅行などの行事に参加している。利用者の参加している地域交流サロンからは、メンバーが踊りや演奏に来てくれたり、散歩時には地域の人たちと気軽に言葉を交わすなど地域との交流を大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に参加して頂き認知症等についての勉強会を行い、入居者様の状況を説明しつつ認知症の人への理解や支援の方法についてお話している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回利用者様の状況報告、行事報告を行い参加された方々に意見をもらい改善すべき点は話し合いをし、サービスの質の向上に努めている。	包括支援センター、町内会、利用者、家族、職員が参加し定期的に開催している。会議の中に勉強会を取り入れたり、家族からの要望を即、サービスの向上に反映するなど会議の有効な活用が図られている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者と行き来する機会はあまり多くありませんが、運営推進会議に地域包括支援センター職員に参加して頂いたり、区の管理者会議へ出席し情報交換を行っている。	市や区の管理者会議に出席し情報交換を行うとともに包括支援センターに空室情報の速やかな提供を行っている。保護課とは良好な協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部・外部での研修会へ参加し身体拘束を行わないよう全職員が理解しケアを行い、特に新人職員には都度指導している。	身体拘束排除のためのマニュアルを整備し、研修会で理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。言葉による抑制についても職員同士注意し合っている。日中は玄関の施錠をしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	内部・外部での研修会で学び、職員同士意識を高めあい虐待が見過ごされることのないよう日々のケアに努めている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が理解できるよう内部研修での勉強会や資料を配布、常に学べる体制となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際には契約内容・重要事項等十分な説明を行い理解・納得頂いている。解約・改定についても説明し不安・疑問のないようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者・家族とのコミュニケーションを密に意見・要望をお聞きするよう心がけている。苦情窓口を設置しており、苦情・不満等あった際には傾聴の場を設け運営に反映できるようにしている。	来訪時、諸行事への家族の参加時、運営推進会議において家族が意見を述べやすいよう心掛けており、出された意見、要望はサービスの向上に繋がるよう努めている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月１回ミーティングを行い意見や提案等聞く機会を設けている。日々の中でも何かあれば話し合いを行い反映できるよう心がけている。	管理者は、日頃から職員の意見を聞くよう心掛けている。職員は、レク関係、装飾関係など運営全般にわたって役割を分担しており、職員の意見の反映しやすい環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務状態を把握し常日頃より職員とコミュニケーションをとり働きやすい環境つくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修・外部研修への参加・報告と日々のケアの中で指導を行い、職員のモチベーションを上げスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議への出席、他のグループホームとの合同の行事へ参加することで交流をしている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談やコミュニケーションを大事にすることで本人の性格や個性を理解し、それに添ったサービスを提供できるよう心がけている。信頼関係を築きご本人らしい生活が出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望には真摯に向き合い、困っていること・不安なことに丁寧に回答を述べることで良好な関係つくりを築く努力を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の要望を良く聞きご本人が生活する上で必要としている問題点を考慮しつつ支援させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の一員として料理等日常生活の中で手伝い等できる事には参加してもらい日々の生活を共に支えあえる関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にご本人の要望や状況等を面会時や電話にて報告・共有する事で共に支えていくよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人が面会に来設された時には気軽に過ごせる場を提供している。またご一緒での外出もできるよう支援をしている。	馴染みの美容室の利用、行きつけの店での買い物などの支援を行っている。家族、友人の来訪も多く、申し込みによって食事を提供し、利用者とともに居室でゆっくり摂れるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事作り・レクリエーション等では職員が間に入り入居者様同士が楽しく関わり合える関係を築けるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続してよい関係が保てるように必要に応じて付き合い等を行わせて頂いている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員一人ひとりが会話の中で希望や意向を把握し記録や話し合いにて共有している。把握が困難な場合には生活歴や家族に伺い希望に添えるよう支援している。	一人ひとりの思いや意向を意識して把握に努めており、毎日の生活状況は個人ごと詳細な「生活（暮らし）アセスメント表」に記録し職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前に本人・家族より入居前の生活について充分にアセスメントを行い、それに添えるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活において現状を把握し、職員間の情報共有をもとにその方にあった日常生活が送れるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにて意見やアイディアを出し合い一人ひとりに合った介護計画を作成している。本人・利用者・関係者との話し合いをしている。	事前に利用者・家族の希望、医師、看護師のアドバイスを得て、日々の様子や変化・気づきの記録などをもとにカンファレンスで職員の意見を取り入れ、一人ひとりに合った介護計画を作成している。モニタリングは毎月、介護計画の見直しは3か月又は変化のあった時に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化・気づき等を個別ノートに記入、職員間で情報を共有している。またケアプランの見直しにも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節の行事やボランティアによる催しを計画し楽しんで頂いている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族・地域包括・町内会等とも協力し、ご本人の意向や必要性に応じその人に合った支援をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の定期的な訪問診療を行っている。また個々のかかりつけ医との連携もとれている。	訪問診療は月1回であるが、熱心な在宅診療医が毎週のように来てくれるほか歯科の毎週の訪問診療、看護師による健康管理・相談がある。かかりつけ医の受診は家族対応が基本であるが、都合が悪いときは職員が支援を行い結果の情報共有を行っている。	

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	心身ともに変化があった時等は直ぐに看護師に報告相談し適切な処置や受診が受けられるよう健康管理に気を配っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の生活状況をお知らせすべく基本状況を渡す等安心して治療を受けられるよう配慮している。早期退院できるよう、まめに情報交換をし関係つくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で本人・家族等と話し合いを行い職員同士ケアの方針を共有しながら対応する体制となっている。	契約の段階で「医療連携体制指針」に基づき説明し同意を得ている。看取りはこれまでにないが、マニュアルの整備、熱心な在宅診療医、訪問看護師との24時間連携体制を築いており、実際に重度化した場合は、再度説明し希望に沿った対応を行うこととしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成し、応急手当や初期対応については看護師・消防施設での訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防職員と共に定期的に避難訓練を行っている。研修会等での情報や知識を共有し、地域の方にも協力を得ている。又毎年防災センターへ行き見学・体験を行っている。	年2回、消防署や地域住民の協力を得て日中及び夜間想定の避難訓練、消火訓練を利用者とともに行っている。食糧、水、暖房器具などの災害時備蓄を行っている。	火災を中心とした防災対策を行っているが、さらに、利用者とともに地震などの自然災害を想定した訓練の実施、救出に役立つ利用者の情報図面の作製を期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性を尊重し、ミーティング等で話し合い声の掛け方・誘導の仕方・接し方を工夫している。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない接し方に力を入れ職員研修を実施している。「～さん」付けで呼び掛け、個人台帳の保管はロッカーで適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で希望や思いを聞き、かなえられるよう支援している。自己表現がなかなか出来ない方には時間をかけ希望等表せるよう対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の体調やペースに合わせ急がす事無く、その人らしい生活を送れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容を利用している。ご自分で服装を選んでいただいたりマニュキュアを塗らせていただいたり整容講座を取り入れたりしてADLやQOLの維持向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様とお話しをしながら調理・食事後片付けを行っている。個々の出来る力を発揮し活かせるよう支援させて頂いている。	利用者は、調理、盛り付け、配下膳、食器洗いなど出来るところに参加し、職員と会話を交えながら食事をしている。誕生日には本人の好みの物を作り、行事外出の折には外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるバランスのとれた献立に添いながら一人ひとりの状態に合わせ形容を変えている。体調や摂取状態のもとその時々にて介助し必要な量を確保出来るように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後声がけ・見守り・介助にて口腔ケアを行って頂いております。歯科医と連携を図りながら口腔状態の確認をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のサインや排泄間隔のパターンを考慮し、それに添った介助支援をしている。体調や食事・精神面で変化する為声がけ誘導に配慮しながら不快感や失敗を減らすよう支援している。	トイレでの排泄、布パンツ使用を基本目標に、排泄チェック表で排泄パターンを把握するとともに、しぐさやサインを見逃さないよう声掛け誘導を行い、排泄の失敗が少なくなるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食前の牛乳等で腸内刺激や家事・清掃への参加、朝のラジオ体操・歩行運動をを日常的に行っている。食事は栄養士によるメニューのもと考慮。水分補給はこまめに行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調やその日の気分に応じて無理強いはせずに気持ちに寄り添って入浴して頂いております。また記録にて入浴間隔があかないよう配慮している。	週2回以上の入浴を基本とし、希望があるときは希望に沿って対応している。シャワー浴、足浴などの体調に合わせた入浴、重度の人には2人介助の支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人に合った場所や時間で休息をして頂いております。日中は活動的に過ごしていただいたり夜間は照明等に配慮、安心・安全に入眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の用法・用量を職員全体で把握し見守り介助にて服用して頂いている。医師の指示により薬の増減調整をしたり個々の症状の変化と確認をしながら支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者様に役割を持って頂き心の糧となるよう支援している。誕生会・季節ごとのレクリエーション等により幸福感や気分転換になるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項　目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には近隣へ散歩に出掛けている。外出は各々の希望に添ったプランを元に安全に出掛けられるよう思案して状況によってはご家族様の協力を得られるようにしている。	天気の良い日は毎日のように向かいの公園に散歩に行ったり、買い物など積極的に戸外に出るよう支援している。季節に合わせて桜や梅の花見、イモ掘り、トウキビ採り、日帰り温泉旅行、紅葉狩りなど、できるだけ多くの外出を楽しむ機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様と相談の上職員管理をさせて頂いているが、ご本人の欲しい物都度支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話があった際・本人が掛けたいと言われた時には都度対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の協力の元、季節等感じる飾り付けをしている。利用者の作品等の展示をしている。	居間・食堂の窓は広く明るく、保育園を改修した建物は家庭的な雰囲気を漂わせている。毎月、装飾を担当している職員と利用者がその季節にふさわしい飾り物をつくり、季節感が感じられるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士でご一緒に座られ会話したり、一人掛けソファや食堂の椅子に座られたりゆっくりとご自分の時間が過ごせるよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様の写真や昔馴染みの物や職員が誕生日等で贈ったカードも飾り、穏やかに安心して過ごせるよう配慮している。	居室にはクローゼットがあり、床はカーペットが敷き込まれ利便性と快適な造りとなっている。各居室には個別の暖簾、名札の代わりに手作りの飾り物が掛けられ、自分の部屋が分かるようにしている。 利用者は馴染みのイス、テーブルなどを持ち込み、写真、人形など思い思いに飾り付け、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの目印や居室には表札を付け、施設内は手すりを設置しており安全に移動できるようにしており、動線には物を置かないよう気をつけている。		